

令和4年度リーベルネットワーク合同研修会報告書

1. 開催日時：令和4年8月3日（水） 14：00～16：00

2. 開催場所：オンライン研修

3. 参加者

○学校関係者：33名

（小学校）

福島小学校、長峰小学校、上妻小学校、三河小学校、八幡小学校、忠見小学校、川崎小学校、岡山小学校、黒木小学校、黒木西小学校、筑南小学校、立花小学校、星野小学校。

（中学校）

福島中学校、南中学校、見崎中学校、西中学校、黒木中学校、筑南中学校、立花中学校、星野中学校、上陽北^{ほくぜい}学園、矢部清流学園。

○福祉関係者：19名

ゆうゆう、よろず屋、ほっぷ、悠、キャンデーハウス、あるくとぷらす、リーベル、八女市福祉課。

4. 内容

講師・・・^{つるきんじ}鶴欣二氏（現八女市立図書館館長）

（7年間小学校の特別支援学級担任、親の会活動への取り組み、その後、筑後特別支援学校、大牟田特別支援学校教頭、小学校校長を歴任。）

テーマ・・・「こどもたちを支える～教育と福祉の連携（つながり）～」

講演内容

○平成の頃の特殊学級担任時から現在の学校や福祉、環境、状況の違い

○その後の特別支援学校での状況

- 1) 指導が必要な生徒の増加
- 2) 児童虐待相談対応件数の推移
- 3) 発達障がいのある子どもの支援には大きな課題があること

○愛着に問題がある場合の子どもの困り感

- 1) 自分の感情のコントロールが難しい
- 2) 自分への評価が低い
- 3) しっかり頼れる大人がいない

○教育と福祉等とつながりあうことの大切さ

- 1) スペシャリストにならなくていい
- 2) エキスパートにつなげる・つながる
- 3) 連携し、一緒に子どもを支援することで担任の先生や学校が燃え尽きないように行うことが大切

○グループワーク開催

・1グループ7名（相談支援専門員、福祉事業所関係、学校関係）の6グループに分かれ、相談支援事業所の相談支援専門員が進行役となり、「教育と福祉の連携」についての意見交換を行う。

1グループ

放課後等デイサービス事業所：特に1年生は夏休みが1カ月ほどあるので、休み前に情報共有の会議があると支援に活かせる。

学校：保護者と話す機会が少ないので、放課後等デイサービスの情報があるとありがたい。

2 グループ

学校：放課後等デイサービスを利用されている生徒はどのくらいいるか？

→通常クラスは「いない」、特別支援学級は「ほとんどの生徒」、中学校は「約半分。その他半分は部活動をされている」。

学校：福祉事業所の職員とは話せているか？

→迎える時に合えば話すが、それ以外では話す機会が少ない。ただ、連絡帳のようなものでのやり取りはある。

3 グループ

学校：特別支援学級を初めて担当し、ケース会議などで支援に入っている機関からの話で生徒が成長していることを知る。成長を知ることにより励みになる。又、手立てなどを教えてもらうこともあり助かっている。もっと勉強していきたい。

4 グループ

福祉事業所：教育と福祉の共通言語が難しいと感じた。先生方も特別支援学級の経験やキャリアが違う。配慮を要する生徒のケース会議と計画が行うモニタリング会議が一緒と思われており、違いが分かりにくく基幹と計画の違いの説明を行った。

5 グループ

学校：福祉サービスの利用については手帳が必要と思っていたが、手帳が無くても福祉サービスを利用できるとは知らなかった。

学校：手帳があると福祉サービスの利用料が安くなると思っていた。

→前年度の保護者の所得に応じて費用負担が決まる。手帳は関係ない。

学校：長く特別支援の担任を行っていれば、色々な知識があると思うが、新人ではどこに聞けば良いか全く福祉のことが分からない。個別に聞いても良いか？

→こちらから学校へ出向くこともできます。しおりの紹介。

6 グループ

学校：保護者から WISC 検査を行ってきたと言われたがどうしたらよいか？

→何を希望されているのか？情報を渡し見学同行、その中で意思決定支援を行う。窓口として SSW を活用してほしい。

学校：どういう高校があるのか分からない。保護者も漠然とした不安があると思うので、教えてほしい。

→情緒の生徒で私立高校の専願入試であれば事前に申し送りができる。公立高校は事前にできないため合格後引継ぎを行う。

サポート高校の紹介。高宮学園、クラーク高校、全日制、定時制、単位制の紹介。

学校：母親に困り感がないとサービスにつながらないためどう引き出すかが難しい。

→幼少期からのペアレントトレーニングや母子通所を利用して困り感を感じてもらうのは。

○参加された先生方から感想

・福祉や医療、教育など色々な機関と連携していくことが大切だと感じた。

・本人や保護者の思いに寄り添った支援ができるように連携していきたい。 等